

丹波篠山の黒大豆栽培

～ムラが支える優良種子と家族農業～



日本農業遺産

令和3年2月認定

兵庫県丹波篠山地域

本地域では、水不足を克服するために稲作をしない犠牲田を設け、湿田での黒大豆の栽培を可能にする「乾田高畝栽培技術」が生み出されました。灰小屋で粗朶や落ち葉を焼いて作る灰肥料の使用や、地域内に多くあるため池には希少な両生類等が生息するなど、農の営みの中で自然環境が守られています。

ムラぐるみの「堀作」



犠牲田を掘り上げて畑地化する「堀作」は、集落での話し合いのもと順番が決められ、協働の風土が生まれました。

伝統方式「乾田高畝栽培」

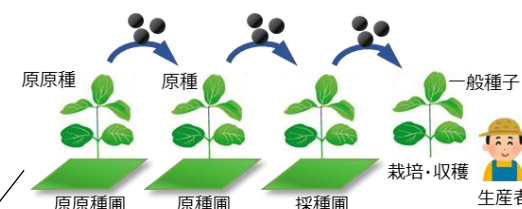


湿潤・重粘土な水田を乾かすために畝を高くする「乾田高畝栽培」は極大粒の黒大豆に適するよう進化を重ね、現在に至るまで受け継がれています。

犠牲田（堀作）から生まれ、受け継がれた栽培技術と協働の風土



優良種子の選抜・生産方式



1871年に波部本次郎が「波部黒」を育種して以来、在来種の中から優良な種子が選抜育種され、現在では農家と行政が連携して持続的な生産を行っています。

300年の歴史



1730年の料理本「料理綱目調味抄」に「黒豆 丹州篠山よし」と記された丹波篠山の黒豆は、300年をのちを経て代表的な黒豆として高く評価され、全国的な広がりを見せています。

日本農業遺産認定による効果

農林水産業

丹波黒の保護と活用

- 高品質の黒大豆を安定的・持続的に生産できるよう、生産者、試験研究機関、県等と連携して、種子の備蓄や耐病性品種の普及などの仕組みづくりを進めている

- 優良な種子の安定供給:3.2トン(R7)
- 病害による収量減対応に向けた研修会の実施:3回(R7)

黒大豆生産の効率化

- 労働力を補完する生産体制を構築できるよう、栽培機械やICT活用の導入を進めている
- 高騰する農業機械の入れ替えに対応するため、共同購入組織への購入支援を実施している

- 衛星等を活用したモニタリング情報を基にした栽培情報の発信:8回/年
- 農業用機械の共同購入組織数(集落農業守り隊)【累計】:108組織(R7)

次世代への継承

交流活動を通じた景観保全

- お試し移住やこれまでの移住者の事例を発信。移住してきた住民が、いっしょになって地域を支える取組みを進めている

- 丹波篠山暮らし案内書を利用した移住者 82件/年(R6)

子どもたちに伝える黒大豆や地域の歴史

- 小学生を中心に、黒大豆栽培の技術や歴史を副読本やマンガで分かりやすく伝えるとともに、総合学習などの時間を使って農家や市職員の出前授業を実施



▲小学校での出前講座

- 黒大豆「丹波黒」の総合学習出前講座:1回/年(R7)
- 伝統的な食文化や農耕に関連する祭礼の継承:4回/年
- 日本農業遺産「丹波篠山の黒大豆栽培」の情報発信:4回/年

人材育成

新規就農者の研修及び受入れ支援

- 後継者を確保するため、JA、市、県が連携し、農業後継者や新規就農希望者を対象とした研修会や新技術習得支援、研修受け入れ農家の斡旋等を実施

- 新規就農者数【累計】:72人(R7)
- 特別栽培講座の実施:1回/年



▲いきいき農村女性オペレータースクール

既存の農業者以外の方の農業参画

- 農業遺産に関する情報発信により、観光体験や農業ボランティア活動、生産物の購入など様々な関わりのきっかけが得られ、地域の魅力を理解し関心をもつ関係人口が増加している
- 関係人口の中からも移住定住の相談が増えている

- 地域ぐるみの農地保全活動組織数(草刈り隊):24地区
- 大学と連携した起業講座(イノベーターズスクール)受講者【累計】:299人(R7)

生物多様性の推進

農業生物多様性に対する理解の醸成

- 生きもの観察会や里山、ため池、農地などが持つ多面的機能に関する研修会の開催
- 多面的機能支払い支払い交付金を活用した丹波篠山らしい農村の維持

- 里山や農地の生態や多面的機能の保全についての研修会の実施:4回/年
- 多面的機能支払い交付金事業に取り組む集落数:202集落

環境配慮型農業の推進

- 生きものや環境に配慮した生産方式を推進し、良質な食料の持続的な生産を推進

- 環境配慮型農業の普及面積:355ha(R7)
- みどり認定農業者数:8戸(R7)



▲農都のまほろば水路



▲生産者と一緒に生きもの調査を行う